



やっぱり、家族っていいね。

**家族の日
家族の週間**

このコンクールは、こども家庭庁の「家族の日」
「家族の週間」の趣旨に賛同しています。



令和8年度

家族への手紙コンクール最優秀賞作品集



石川町青少年健全育成推進協議会

石川町教育委員会

後援：福島民報社、福島民友新聞社、町民ニュース社、夕刊いしかわ新聞社、石川町内の郵便局

【目次】

最優秀賞作品

「ままとのやくそく」

石川小学校 一年 薄井 煌人

1

「大すきな妹へ」

石川小学校 二年 郷 稟叶

2

「お父さんとお母さんへ」

石川小学校 三年 西牧 永笑

3

「本当の気持ち」

石川小学校 四年 瀬戸山 雛蘭

4

「私のスーパーばあば」

石川小学校 五年 永沼 恵

6

「大切な家族へ」

石川小学校 六年 水野 陽斗

8

「お母さんの優しさ」

石川義塾中学校 一年 藤田 大生

10

「たぶん大好きな家族」

石川中学校 二年 野崎 夢羽

13

「俺は幸せ者」

石川中学校 三年 矢吹 太心

16

「感謝の仕方」

福島県立石川高等学校 三年 草野 吏来

19

優秀賞・優良賞・郵便局長賞入賞者

22

【家族への手紙コンクールの趣旨】

生きとし生けるものは、親から子へ、そして子から孫へ、古来からその尊い命が受け継がれ、現在に至っています。命を後世に伝え、命の大切さを強く認識し、家族愛を一層確かなものにするため、「家族への手紙コンクール」を実施しました。

ままとのやくそく

石川小学校 一年 薄井 煌人

ぼくは、きゅうしよくのじかんがきらいだった。
ともだちみたくかんしよくしたくても、おもいう
うにたべられなくて、がっこうがいやになった。
そんなぼくに

「すこしずつでだいじょうぶ。」

とままはいった。そして、おかずはむりでも、
ほかのものはきちんとたべることをやくそくした。
いまは、きゅうにゆうとごはんは、かんしよく
できるようになったよ。あしたもがんばろうって
おもえるようになったよ。まま、やくそくするね。
いつかきゅうしよくぜんぶをかんしよくする。
がんばるから、おうえんしてね。

大すきな妹へ

石川小学校 二年 郷 稟叶

「ねえね。」

って言って、わたしの後ろにくっついてくるよね。
わたしのまねばかりしてくるから、いやなとき
もあって、ママに、

「なんでいつもまねしてくるの。」
って聞いたら、

「大すきであこがれているから。」

と言われたよ。うれしくなった。わがままで、
まねっただけど、わらったかわいいかおをたくさん
見たいから、これからもいっぱいあそぼうね。
小学生になったら、学校にいっしょに行くし、
べんきょうも教える。わたしの妹でありがとう。
たった一人のねえねより。

お父さんとお母さんへ

石川小学校 三年 西牧 永笑

お母さん、いつも私に笑顔をくれてありがとう。
落ちこんでいるときに、お母さんの笑顔を思い出
すと元気がわいてくるよ。私が、友だちとけんか
をして学校に行きたくないときに、

「とえなら大丈夫。」

と言って、はげましてくれたから、友だちにちゃ
んとごめんなさいが言えたよ。どんなときも私の
味方でいてくれるお母さんのおかげで気持ち
が楽になったよ。ありがとう。

お父さん、私になにかいやなことがあったとき
に、さいごまで話を聞いて、私にだめだった所を
はつきり言ってくれてありがとう。はつきり言っ
てくれたおかげで、そのだめな所をきちんと直せ
たよ。友だちとけんかしても、仲直りした後には、
お父さんがいっぱい笑わせてくれたから笑顔にな
れたよ。

お父さん、お母さん、いつもありがとう。お父
さんとお母さんが、あいじょうをこめて育ててく
れたから今の私がいます。

本当の気持ち

石川小学校 四年 瀬戸山 雛蘭

ママ、いつもありがとう！そう思っているけど、いつも素直になれなくてケンカをしちゃうね。ママは優しいはずなのにわたしがいっぱい怒らせてるよね。いつも言えないけどごめんね。ママは、わたしのためにがんばってくれている事がたくさんあるよね。わたしはバスケをやっているけど、一番応援してくれているのはママだと思っているよ。わたしに何かあるとすぐに気付いて、「何かあったでしょ？」と声をかけてくれたり、試合で足が痛いのを言わないでがまんしている時も、「ひな、足痛めたでしょ？大丈夫？」と気付いてくれたりしたよね。ママはわたしの事を何でも分かっているからすごいなって感じてるよ。

お仕事から帰ってきて、ママはねるまで座らないよね。家族のために働いて、家でも家族のために動いて、ママがたおれちゃうんじゃないかって思う日がいっぱいあるよ。本当は手伝ってあげたいと心の中では思っているんだよ。でも、やってあげられな

くてごめんね。自分の事じゃなくて家族みんなの事を優先しているけど、わたしはママの時間もあるといいなあと思うよ。わたしはママのえ顔が見たいよ。だから、今度は心の中で思っているだけじゃなくて手伝ってあげるね。何でも言ってね。

いつも本当にありがとう。直接言うのは恥ずかしいけど、大好きだよ。

私のスーパーあば

石川小学校 五年 永沼 恵

ばあばは、七十才になっているのに今でも元気にバレーボールをしているよね。すごいと思うよ。六月にあった地元の球技大会では、私もバレーボールのメンバーになったよね。その練習の時に、私はサーブが全然入らないし、拾うボールが手首に当たっていたくて、正直「やりたくない」という気持ちだったんだ。でもばあばが「もっとこしをおろして。」とか「サーブは手をしっかりのばして真っすぐだよ。」と私にいろいろアドバイスをしてくれたよね。そのおかげで、高いネットでもサーブが入るようになったし、私の前に来たボールも取れるようになったよ。球技大会本番では、苦手だったサーブでも点を決められたよね。さらにMVPという賞までもらうことが出来て、私はすごくうれしかったんだ。ばあばがいろいろ教えてくれたおかげだよ。ありがとう。

それに私は料理が大好きで、よくいろいろなものを作るけど、味の調節が分からなくて、塩を入れすぎてしまうことが多いよね。

「失敗しちゃった。」

と私が言ってもばあばは

「ちよっとしよっぱいけどおいしいよ。」

と言って食べてくれるし、

「塩は一つまみでも味がしっかりでるよ。」

とアドバイスもしてくれるよね。何の料理を作っても、全ておいしいばあばみたいになれるように練習するね。夕ご飯の時には、私のきらいな野菜やあぶらの多い肉をばあばの皿においちゃってごめんね。ばあばは、

「何で食べないの。」

と言いながらも、結局食べてくれるよね。ありがとう。私ももっときらいなものをなくすようにがんばるね。

私にたくさん教えてくれるばあばは、私のスーパーばあばだよ。これからも長生きしてバレーボールをしたり、おいしい料理を作ったり食べたりしようね。ばあばいつもありがとう。大好きだよ。

大切な家族へ

石川小学校 六年 水野 陽斗

お父さんへ。

いつもぼくたちのために、一生懸命、働いてくれてありがとう。日々当たり前のようにご飯を食べたり、笑顔で生活したりできるのも、大黒柱であるお父さんのおかげだと、最近、少しずつだけど、分かるようになってきた。

休日に一緒にバドミントンをしたよね。お父さんにラケットの持ち方とか球の打ち方を教えてもらい、最初のころは、あまり上手にできなくてラリーーが三、四回ぐらいしか続かなかったけど、それでもお父さんは失敗を笑い飛ばしてくれて、そのおかげでぼくは少しだけだけど、バドミントンが上手になった気がする。

お父さんは時間があれば草刈りや読書をしているよね。お父さんが読書好きのおかげでぼくも読書に興味がわいて本が好きになった。

料理もおしえてくれたよね。家族みんなでカレーを作ったとき、ぼくは野菜の皮むき担当だった。

でもそのころは、まだ料理が苦手だったから、ジャガイモのへたのとり方とかピーラーの使い方をお父さんが優しくぼくに教えてくれたよね。時間がかかったけど、上手にできた。それでぼくは、料理が面白いと思ってきて、今ではよくたまご焼きを作って、弟にとっても好評で、たまご焼きがぼくの十八番になった。

おこられた時はとてもこわいけど、今は全部ぼくのためだったんだと思う。

これからは勉強も家事も、少しずつでもいいからがんばりたい。そして、しょう来はお父さんみたいに、いろいろな人に信頼される元気いっぱいの人になりたい。

まだ、今はドジでいろいろと間ちがえることが多いけど、少しずつミスを減らして、お父さんに「成長したな」って思ってもらえるようになりたい。今までありがとう。そして、これからよろしく。

お母さんの優しさ

石川義塾中学校 一年 藤田 大生

今年の四月、私は新しくなった少し大きめの制服に身を包み、中学校の門をくぐりました。小学校の時とは何もかもが違う新しい生活への期待と、それ以上に大きな不安を抱えてのスタートでした。実際に中学校生活が始まってみると、毎日が想像以上のスピードで過ぎていきました。教科ごとに先生が変わり、授業のスピードも一気に速くなりました。部活動も始まり、先輩たちに囲まれながら慣れない練習に必死についていく日々でした。夜、へとへとになって家に帰ると、宿題や次の日の予習が待っています。さらに定期テストという新しい壁もあり、順位や点数という数字で自分の実力を突きつけられる現実には、私は知らず知らずのうちに心も体も余裕をなくしていきました。そんな余裕のなさから、私は一番身近で、一番甘えられる存在であるお母さんに、八つ当たりをしてしまうようになりました。

朝、眠くてなかなか起きれない時、お母さんが優しく声をかけてくれているのに「うるさいな、わかってるよ」とはねのけてしまったり、学校での出来事を聞かれても「どうでもいいでしょ」と冷たい返事をしてしまいました。本当はお母さんが私のことを心配してくれているのも、私のために毎朝早く起きてお弁当を作ってくれているのも分かっていました。それなのに、顔を合わせるとどうしても素直になれず、トゲのある言葉ばかりを言ってしまう自分がいました。夜、ベッドに入ってから「なんでこんなことを言ってしまったんだろう」と一人で後悔する日も少なくありませんでした。

そんな私のギスギスした心を溶かしてくれたのは、やっぱりお母さんの変わらない優しさでした。初めての定期テストの結果が悪く、私がひどく落ち込んで帰った日のことです。お母さんに点数を見せるのが怖くて、リビングの机に黙って答案用紙を置きました。怒られるか、呆れられるだろうと思っ

て身構えていた私に、お母さんは怒らず優しく、

「まだ次があるよ」と言ってくれました。その言葉を聞いて、次もがんばろうと思いました。お母さんは、テストの点数だけではなく、私が毎日必死に新しい生活に慣れようとがんばっていた姿を、ずっと黙って見ていたのだと気づいたからです。

お母さん、あの時は恥ずかしくてちゃんと言えなかったけれど、本当にありがとう。お母さんが毎朝、玄関で見送ってくれる「いってらっしゃい」の笑顔と声は、私が一歩外へ踏み出すための何よりのお守りです。まだまだ中学生になったばかりで、これからもたくさん心配をかけるし、時にはまた素直になれずに反抗してしまうこともあるかもしれませんが。普段は照れくさくて絶対に言えないけど、私はお母さんの子どもに生まれてこれで本当に幸せです。言葉にするのは恥ずかしいけれど誰よりもお母さんのことを尊敬しています。これから、よろしくね。

たぶん大好きな家族

石川中学校 二年 野崎 夢羽

私の家族は、いつもお互いに文句を言い合っている。お母さんはとにかく朝から晩まで小言が多いし、お父さんはうるさくて細かい性格だ。十二歳離れている姉とは、年齢が離れていることもあって普段は生活リズムが全く違う。すれ違っても挨拶を交わす程度で、家の中では、ほぼ口を利かない。学校から帰ってきてても、それぞれが自分の時間を過ごしている。正直、うっとうしいと感じてしまう日だってある。だから、私の家族への気持ちには、胸を張って「大好き」と言うより、「たぶん大好き」と言う方がちよいどいい。

そんな私たちの家族は、普段の生活ではバラバラに動いている。平日も休日もそれぞれ生活のペースが違えば、ご飯を食べる時間もバラバラで、全員で食卓を囲むことなんか滅多にない。そんな私たちが、一年のうちに必ずリビングに集まる日がある。それは、お正月やクリスマスといった特別な行事の日だ。この日ばかりは、普段の静けさが嘘のように部屋がにぎやかになる。といっても、相変わらずあちこち

で小競り合いのような言い合いは始まる。けれど、いつものトゲトゲした空気とはどこか違う。温かくて心地よい騒がしさなのだ。しかし、私の家には、行事のたびに繰り返されることがある。リビングの大きなテーブルの上が、絶対に四人では食べきれないほのご飯や惣菜で埋め尽くされる。ひどい時には、同じようなホールケーキが四個も並んだことすらあった。「またこんなに買ってきて。事前に誰も話し合いしなかったの？」と私が突っ込むが、お母さんもお父さんもお姉ちゃんも「ついつい買いすぎちゃった」と言う。全員が口を揃えて「次は絶対に気をつけよう」と反省するのに、次の行事のシーズンが来ると、やっぱり同じことが繰り返される。私は心の中で「またか」と呆れながらも、お決まりのやり取りに、どうも安心してしまう。みんなで笑い合う時間が、実は何よりも好きだった。

普段は、バラバラで、不器用で、まとまりがない。それでも、テーブルからあふれそうな料理やケーキは、家族みんなが「今日の行事をみんなで楽しみたい」と願ったことだと私は思う。言葉で伝えるのは上手ではないけど、これが私の家なりの優しさなのだと感じる。面と向かって「大好き」なんて絶対に

言わないし、明日になればまた些細なことでケンカをして、お姉ちゃんともそれぞれの生活に戻っていかかもしれない。だけど、この「たぶん」には、何ものにも代えがたい安心感がある。普段は照れくさくて絶対に言えないけれど、この手紙の中でだけ。たぶん、いや、きっと大好きな私の家族へ、心を込めて。

「いつも、本当にありがとう。」

俺は幸せ者

石川中学校 三年 矢吹 太心

ばあちゃんへ、九十七歳までお疲れ様。今頃はじいちゃんと仲良くしてるかな。命日まで一緒になるくらい仲良かったもんね。俺、ばあちゃんみたいに強くないからさ、何回も泣いたよ、何回も何回も泣いた。でも泣いたってばあちゃんが戻ってくるわけないし、気持ち晴れるわけでもない。泣いたらばあちゃん悲しんじゃうよってことも言われた。でも我慢できるわけないよ。

大好きだったよ。生きてる間に俺は何回言えたかな。もっともつと言いたかった。なんでもっとばあちゃんのことを知ろうと思わなかったんだろう。なんで俺は、もっとばあちゃんと一緒にいれるとかんちがいしていたんだろう。今更後悔してもおそいことは分かってる。でも伝えたいことがたくさんあったんだよ。

陸上も頑張って県までいったよ。バスケも最後まで

で諦めないで全力で頑張ったよ。だからまたいつも
みたいに、すごいねってほめてよばあちゃん。

伝えたいことまだまだあるよ。弟だって中学生に
なって、テストで良い結果とってるよ。俺たちは
すごいんだよ、だってばあちゃんのひ孫だもん。
また親戚の人たちに言ってたみたいにさ、天国でも
自慢してよね。

でも、こんなことよりももっとばあちゃんに伝え
ないといけないことがあるんだ。どんな賞状や盾や
メダルなんかよりも俺は、ばあちゃんのひ孫ってい
うなによりも誇れるものを持ってるんだよ。天国に
いったらどんなことよりも先に自慢してよね。それ
と、じいちゃんとは仲良くゆっくりと楽しんでくだ
さい。九十七年間も生きてきて、辛い時もあっただ
ろうけど本当に頑張ってきたんだから、あとはもう
ゆっくりと休んで俺達を見守ってね。本当に九十七
年間お疲れ様でした。

そして最後に俺からはあちゃんにおけた言葉を

一言だけ。ばあちゃん本当に本当にありがとう。
俺は本当に幸せ者です。この家で生まれられて、
ばあちゃんのひ孫になれて、本当に幸せだよ。何度
でも言うよ。俺はばあちゃんのひ孫になれて幸せだよ。

感謝の仕方

福島県立石川高等学校 三年 草野 吏来

僕は山の奥の一軒家に住んでいる。家では六人で二世帯にわたって生活して支え合っています。お父さんは大工の仕事で家を支え、お母さんは家事をして家を支えている。お父さんは朝か昼に家を出て行き夜に帰ってくる時もあれば、深夜に帰ってくることもある。お母さんはいつも家にいて、僕たちの面倒を見たりご飯を用意してくれていていつもそばにいた存在です。ですが、お父さんは逆で朝から夜まで仕事なので、お母さんと比べると一緒にいる時間が短いです。しかし、最近は仕事が落ち着いていて、一緒に話す時間や一緒に何かをすることが増えました。

まず、自分の好きなことやしてみたいことを話したことが、より親しくなったきっかけです。僕のお父さんは、車やバイクといった、「ザ・男の子」が好きな趣味を持っています。そして僕も、昔の車やバイクが好きで、その話をするといつも楽しそうに

話してくれます。さらに、昔乗っていた外車のバンが家のガレージに八年ほど放置されていました。そして僕は、勝手にバッテリーを買ってきて交換し、再びエンジンをかけることに成功し、お母さんから「またこの音が聞けるなんてうれしいなあ。」と言われたりもしました。このことをきっかけに、両親が僕が「車を好き」なんだなあと理解してくれました。それからお父さんと分解や修理をするようになり、一緒に過ごす時間が増えました。車の外装の形を整えるために、ヒートガンなどの工具が必要になります。その際には、色々な道具や工具を貸してくれて、仕事から帰ってきてから手伝ってくれたりなど助けてくれました。

そしてある日、昔親が使っていた工具箱を見つけ、きれいにしてまた使えるようにしてあげようと思いい、片っ端から水洗いをしてみたり、油汚れなどを落として再び使えるようにしました。それをお父さんに見せてあげたら喜んでくれて、様々な道具や道具をその工具箱にしまってくださいました。

このように、いつもはすぐそばにいるお母さんに

しか感謝を伝えていないが、お父さんにもこうやって言葉だけでなく、一緒に時間を過ごすことで、より感謝を伝えられたと思います。今後も両親に感謝を伝えて生きていこうと思います。

【優秀賞入賞者】

「ママへ」	石川小学校	一年	渡邊	遙紀
「おにいちゃんへ」	石川小学校	二年	中野目	綾佳
「ばあちゃんへ」	石川小学校	三年	滝川	芽
「いつもがんばってくれる大好きなママへ」	石川小学校	四年	安藤	詩桜
「大好きなお父さん」	石川小学校	五年	鈴木	感人
「手紙にこめた父への思い」	石川小学校	六年	長澤	優
「ばばちゃんへ」	石川中学校	一年	矢吹	優奈
「お母さんに伝えたい事」	石川中学校	二年	竹貫	梨紗
「かっこいいねお母さん」	石川義塾中学校	三年	遠藤	蒼史郎
「感謝」	福島県立石川高等学校	三年	水野	椿

【優良賞入賞者】

「だいききなママへ」	石川小学校	一年	高橋	諒
「やさしいじい」	石川小学校	二年	田子	吏桜
「ママへ」	石川小学校	三年	長谷川	大和
「私のおばあちゃん」	石川小学校	四年	添田	心彩
「父へ」	石川小学校	五年	矢内	快音
「世界一大好きなばあばへ」	石川小学校	六年	山田	心華
「親への感謝」	石川義塾中学校	一年	古井	稜久
「兄へ」	石川義塾中学校	二年	遠藤	煌史郎
「繋いだバトン、繋ぐタスキ」	石川中学校	三年	田子	苺幸
「手紙」	学校法人石川高等学校	一年	野口	そら

【郵便局長賞入賞者】

「ママへ」	石川小学校	一年	西倉	大陽
「ママいつもありがとう」	石川小学校	二年	矢内	あまね
「お兄ちゃんへ」	石川小学校	三年	野田	晁玄
「がんばっているパパへ」	石川小学校	四年	矢内	陽詩
「大好きなばあばへ」	石川小学校	五年	中井	桜叶
「大好きなおじいちゃんとおばあちゃん」	石川小学校	六年	小松	右京
「大好きなお父さん、お母さんへ」	石川中学校	一年	喜田	小夢
「ありがとう」	石川義塾中学校	二年	杉本	結叶
「親への感謝」	石川義塾中学校	三年	蛭田	颯介
「いつもありがとう」	学校法人石川高等学校	一年	大武	姫菜

令和8年度 家族への手紙コンクール最優秀賞作品集

石川町青少年健全育成推進協議会 石川町教育委員会

〒963-7852 石川町字関根 165 石川町教育委員会生涯学習課
電 話 0247-26-2566 F A X 0247-26-4992

